



豆まき



今年は、赤鬼、青鬼がやってきました。みんなの心の鬼を追い払おう！と話し、お手製の新聞ボールを投げて鬼を追い払いました。

中には、怖くてなかなか投げられない子も、大人と一緒に新聞ボールを投げて、無事お福さんをいちちょうの森こども園に迎え入れることができました。



いちちょうの森だより

いちちょうの森こども園 園だより No.60



令和4年3月1日 発行

いちちょうの森こども園 園だより

桜が丘東3-3-496

TEL 086 (956) 2022

FAX 086 (956) 2023



いちちょうの森こども園 HP には、QR コードまたは下記の HP アドレスよりアクセスできます。

<https://ichounomori.okayamakodomokyoukai.jp/>

事業計画「おおきくなりたい」Ⅱ

～こどももおとなも共に安心できつながらる場所～に寄せて

草木の新芽が萌え出ずる季節となりました。近隣の公園や園庭の草木が春の暖かな日差しを受けて少しずつ蓄を膨らんで来ました。ほし組のこども達が「みんながそら組になったら頃に咲くね」と植えたチューリップも早ければみんなが進級する頃に咲くと思います。

いちちょうの森こども園での一年を振り返ると園外での活動には制限がありましたが、いちちょうの木々のそばでこども達と共に四季を感じた毎日でした。

令和3年度事業計画のテーマは「大きくなりたい」です。中でもこどもが主体的に生活や遊びを展開できる場所の提供の重点行動施策の1つに園全体で取り組んだ

「いちちょうフェスティバル」があります。年間を通してテーマをもとにこども達と考えて進めてきた行事です。春はお店屋さん・自然あそび

夏はお店屋さん・水あそび

秋は木の実を使った制作あそび

冬は日本の伝統あそびを中心にしたコーナーあそび

すべてはクラスを超えた異年齢児交流ができるチャンスで、そら組を中心に季節に合ったコーナーあそびでした。

今年度は感染予防の観点からいちちょうフェスティバルについても異年齢ではなくクラス単位でのあそびへと急遽変更をした季節もありました。大切にしていることを次の世代へも引き継いでいく姿勢は今後も続けたいと感じています。どうやったら持続可能なか職員で知恵を出し合い、意見を言い合いながら、今まで通りではできないという壁にあたったこともあります。思いが変えられるチャンスだったとも思えます。

今年度はコロナ禍の園での生活で保護者の方にもご理解とご協力をいただきありがとうございました。今年度もあと1か月となりました。今できることを再確認しながら生活したいと思います。

園長 高原 泉



3月

- 3(木) 誕生会
- 8(火) 卒園旅行
- 11(金) 健脚活動
- 14(月) 避難訓練
- 23(水) 卒園式、終了式
- 24(木) 一号春休み [~3/31]



4月

- 1(金) 進級会
- 5(火) 入園式
- 22(金) 誕生会
- 25(月) 避難訓練
- 26(火)~27(水) 検尿検査
- 28(木) 健脚活動

ちょっと 教えて！

1年間『ちょっと教えて』コーナーにお付き合いいただき、ありがとうございました。コロナ禍の中、保護者の方々と何か交流を持つことができるといいなと思い、始めたコーナーでした。最後の保護者の方々への質問は、『悩み相談や園の思いを掲載したのですが、いかがだったでしょうか？』です。載せられる限り掲載しています。

・紙面を通じてのコミュニケーションが今では貴重な機会であり、楽しんで書いていました。

・他の方がどうされているのか分かっていいと思います。誰しも悩みながら育児されているのが分かるのも自分だけではないと思えます。

・いろいろな方法を知ることができて良かった。参加企画、またして欲しいです。

・悩みや考え方、園の思いなど、いろいろな意見を聞くことができ、自分も考えるきっかけになりました。



他にも、たくさんのご意見ご感想をいただきましたが、紙面のスペースに限りがあり、掲載しきれないことが残念です。

保護者の皆様のご協力で、とても楽しいコーナーになり、嬉しく思います。1年間ありがとうございました。



クラス自慢

そらぐみ

仲が良いことがそら組の自慢です。一年間を通してこどもたちと過ごしてきましたが、どんどん仲が深まっていくのが目に見えて分かりました。あそびの中でも仲が良いですが、困っている友だちには、声をかけたり、「手伝うね」と協力したり、保育者が声をかけなくても自然にできることが「すごいなあ」と思います。



家族ごっこ楽しい♪

にじぐみ

にじ組のクラス自慢は『ユニークさ』です。にじ組のこどもたちは面白いことが大好きで、ちょっとした時間によくにらめっこを楽しんでいます。友だちと向かい合って全力の変顔で対決！その変顔をそばで見ながらいつもすぐにぷぷっと笑ってしまう保育者です。



ほしぐみ

縄跳びを頑張っているほし組です。そこで、跳んだ回数を保育者に記入してもらって縄跳びカードを作り、一人ひとりの目標に向かって日々取り組んでいます。初めから「できん」と諦めてしまうのではなく、何事にもやってみようとする気持ちをもって挑戦できることがほし組の自慢です。憧れのそら組に向かって何事にも取り組んでいきたいです。



ゆきぐみ

真似っこあそびが好きで、保育者が手あそびをしたり、うたったりすると「もういっかい！」とアンコール。すぐに覚えていて、感心します。今のお気に入りには、『えんやりりんごの木』というあそびうたです。まるで、本物の赤ちゃんをあやすかのように抱っこをしたり、高い高いをしたりと今まで自分が見たこと、されたことを人形で再現していました。



つきぐみ

大きいクラスの様子をずっと見てきたので、保育者の手伝いや困っている友だちの世話を進めるようになりました。あそびに必要な机や大きな台を「もってこようか？」と得意げに運んできます。

また、朝は帳面のシール貼りに困っている友だちには「ここよ」と教え合ったりしながらこどもたちだけでやってみようとする姿に1年前の春より、ぐんと大きくなったね、と頼もしく感じています。



はなぐみ

はな組のクラス自慢はみんな歌が大好きなところです。保育者が歌い始めるとそばに来てリズムに乗りながら身体を揺らしたり、音の鳴るおもちゃを持ってきて歌に合わせて振ったりしています。他にもはっきりと歌うことは難しいですが、最後の語尾のタイミングがバッチリ合っているところも自慢の一つです。はな組だけのコンサートをできる日が来るかもしれません。

